

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (サウンドクリエイターコース)											
ベーシックレッスン1											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	大野・柴・野村・恒枝・堀越			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
音楽制作の各となるシーケンサー、CUBASEの操作方法を覚える。CUBASE付属及びNIのシンセサイザー及びエフェクトの使い方や仕組みを学び、楽曲制作の流れを把握する。デジタル音楽制作に必要な様々なテクニックと知識を理解出来るようにする。											
到達目標											
CUBASEを用い、シンセサイザーのプリセットを使い一通りの楽曲制作が出来るようになることを目標とする。楽曲制作に必要な基本的なエフェクトの動作の仕組みと使用方法を習得する。シンセサイザーに対する基礎的な知識を把握する。音楽制作における一通りの流れを把握する。											
授業方法											
パソコン(1人1台)を使用し、ホワイトボード及びプロジェクターで行う講義内容をCUBASE上で実際に確認しながら進行していく。操作方法などを覚えるため、ノートを持参しメモをとること。理解度を把握するため適宜サウンド作成の提出課題あり。											
成績評価方法											
提出物及び試験課題60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。理由のない途中退席は認めない。時として高度な内容を含むので各自予習復習に励むこと。											
教科書教材											
配布プリント・プロジェクター上での解説											
回数	授業計画										
第1回	シーケンサーとは?DAWの仕組みと音楽制作の基本的な流れを理解する。										
第2回	CUBASEについて。各ウインドウの説明MIDIトラックとオーディオトラックを理解する。										
第3回	CUBASEについてその2。MIDIトラックへの基本的な打ち込みの流れを把握する。										

ベーシックレッスン1

第4回	CUBASE付属のVSTシンセについて。モデリングシンセとPCMベースシンセの振る舞いの違いを理解する。
第5回	ループ素材を用いたトラックの制作。及び素材の加工方法を理解する。
第6回	ドラムサンプラーを使ったリズムトラックの制作。及び代表的な音色(808, 909等)について理解する。
第7回	NIのVSTシンセについて。KONTAKTの使用方法和CUBASE上の設定について把握する。
第8回	楽曲制作演習。リズム、メロディ、コードを今まで学習してきた内容を用いて制作する。
第9回	楽曲制作演習その2。リズム、メロディ、コードを今まで学習してきた内容を用いて制作する。
第10回	VSTエフェクトについて。CUBASE上のエフェクト(インサート、センド)及びEQ, コンプ、リバーブのパラメータについて理解する。
第11回	VSTエフェクトについてその2。CUBASE上のエフェクト(インサート、センド)及びEQ, コンプ、リバーブを用いてトラッキングが出来るようになる。
第12回	デジタルとしての音楽の知識。ビットレート、サンプリングレート、及びデジタルであることのメリット・デメリットや近年の制作環境動向について把握する。
第13回	マスタリングについて。マスタリングの過程と求められるもの、ラウドネス値などについて把握する。
第14回	マスタリング実践、前期のまとめのとして制作～ミックス～マスタリングまでの過程を把握する。
第15回	前期のまとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (ヴォーカリストコース)											
ベーシックレッスン1											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	青木・青野・早川咲・舘・NEEсан・平山			実務経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
<p>グループで行う。ヴォーカリストにとって「声」とは唯一無二の楽器であり、声を「響かせる」といったポイントに重きを置いてレッスンを行っていく。その際に個々の音楽に対してのジャンルや個性を偏らせず、より視野を広げる事を目指す上で、他者の声をよく聞いて分析を行う事で相乗効果を促す。ボイストレーニングの一環で身体の強化、リズムトレーニング、ヴォーカリストとしてのパフォーマンス力の向上の為にダンス教育も行う。</p>											
到達目標											
<p>毎日1時間の発声を行うとした場合の各自のトレーニングのルーティンを作る。自分の課題に対して足りない部分のトレーニング時間の割合、良い部分をより伸ばして行くための時間配分をどのように組み立てて実践するのか、きちんと説明しながら発表できることを到達目標とする。初回の授業で目標とする声質や音、課題のポイントを定め、最終回の授業で達成度を確認する。ヴォイストレーニングとは身体や響く声を作りあげると同時に、音感を鍛えることを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>個々のボイストレーニング手法をアドバイスしながら、呼吸・筋肉の使い方を学ぶ。また、歌唱方法の違いに気が付く分析力を学ぶ。講師の実演と自身の実演を比較しながらその違いを補正していくことによって発声法を体得していく。</p>											
成績評価方法											
試験課題30%、小テスト10%、提出物20%、成果発表30%、平常点10%											
履修上の注意											
<p>社会マナーとして必要以外のスマホ等の操作は厳禁とする。ヴォイストレーニングはとても繊細で緻密なトレーニングの為、授業とは関係ない私語は一切厳禁とする。理由のない欠席は認めない。飲料を持参する(発声器官の保湿と保護及び、風邪など空気感染症の生徒間感染を予防する)。ダンスの際には運動できる服装とシューズ、タオルを持参する。授業時数の3/4を出席しないものは実技試験を受験できない。</p>											
教科書教材											
必要な場合のみ資料を配布する											
回数	授業計画										
第1回	一人ずつ歌い、個々のボイストレーニングでの目標を決める。										
第2回	一人ずつ歌い、個々のボイストレーニングでの目標を決める。										
第3回	腹式呼吸を理解し、丹田を意識することが出来る。										

ベーシックレッスン1

第4回	腹式呼吸を理解し、丹田を意識することが出来る。
第5回	ハミング、リップロール、表情筋を習得する。
第6回	ハミング、リップロール、表情筋を習得する。
第7回	喉開けを理解して共鳴を習得する。
第8回	喉開けを理解して共鳴を習得する。
第9回	エッジヴォイスを習得し、共鳴との違いを理解出来る。
第10回	エッジヴォイスを習得し、共鳴との違いを理解出来る。
第11回	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。
第12回	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。
第13回	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。
第14回	裏声とは何かを理解し共鳴を習得する。
第15回	ここまでのトレーニングの成果を理解出来る。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
ベーシックレッスン1 (Gt/Ba)											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	BAN・高橋竜・永田			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
基礎的なフォーム、演奏スタイルを学びながら課題曲を基本にアンサンブルなどの方法を通して学習していきます。											
到達目標											
ギターやベースでコード譜を読んで弾けるようになること、コード表記で音の構成を理解できる。一定のリズムでコード進行を弾くことができることを目標とする。											
授業方法											
ギター、ベースにおける必要な楽器知識と理論を学びながら楽器を鳴らし体得する。コード弾きを中心に練習する。コード構成音を理解してコード表記の意味がわかるように学ぶ。											
成績評価方法											
試験課題40%、授業内発表20%、提出物評価20%、平常点20%(学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。理由のない途中退席は認めない。											
教科書教材											
配布プリント、楽譜											
回数	授業計画										
第1回	演奏するにあたって必要な楽器の知識を得る。チューニング、右手左手のフォームを確認。ベースの右手フォーム確認										
第2回	各弦の音の配列を覚えてコードネームを理解する。ルートの理解。パワーコードを押さえ音を出すことができるようになる。										
第3回	メジャー、マイナーコードの押さえ方を学ぶ。ベースルート4分弾きができる。										

ベーシックレッスン1 (Gt/Ba)

第4回	メジャー、マイナーコードの押さえ方を学ぶ。右手で4分でストロークができるようにする。
第5回	ローコードで2種類のコードを押さえることができるようにする。(例C-Am) ベースで2音間をスムーズに行き来する
第6回	2種類のコードを一定のテンポで演奏する練習。4分で弾く。
第7回	バレーコードが押さえられる。ベース8分で弾く。
第8回	演奏の中で、音を出さない、音を止める、ミュートを学ぶ。
第9回	2小節ごとに進行していく楽曲のコードを弾く。ベースメジャースケールを弾くことができる。
第10回	2小節ごとに進行していく楽曲のコードを弾く。右手のストロークにリズムをつけて弾く。
第11回	7thコードが押さえることができる。ベース7thが理解できる。
第12回	任意の楽曲のサビ部分のコード進行を弾く。右手でその楽曲のノリが出せるようにストローク。
第13回	課題曲の練習。
第14回	課題曲の練習。
第15回	課題曲を通してで一定のテンポで弾く。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
ベーシックレッスン1 (Dr)											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田原歩			実務 経験	有	職種	ミュージシャン、インストラクター				
授業概要											
基礎的なフォーム、演奏スタイルを学びながら課題曲を基本にアンサンブルなどの方法を通して学習していきます。											
到達目標											
ドラムという楽器の仕組みや役割について正しく理解し、同時に技術習得のために無駄のない身体コントロールを体得することを目標とする。また、「自分の弱点や苦手分野の理解・把握」、「個々の個性を伸ばす事」を常に意識して学ぶ。その結果としてバンドミュージシャン、サポートミュージシャン、スタジオミュージシャンなど、あらゆる形でのデビューでも現場での様々な要求に対応できる知識、技術を身につけることをねらいとする。											
授業方法											
学生個々が持つ身体的特性(手、指や身体の大きさ)等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか?と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら、受講すること。授業中の演奏だけではなく、プロのプレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。											
成績評価方法											
試験20%(授業内容の理解度を確認する)、授業内発表30%(技能、及び表現力を評価する)、提出物20%(知識及び思考力・判断力を評価する) 平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
教科書STICKCONTROL											
回数	授業計画										
第1回	ドラムという楽器の理解/各パーツの音色と役割、ドラムの読み方などの基礎知識を習得する。										
第2回	グリップ、ストロークの理解/基本的なスティックの持ち方(グリップ)、腕の使い方(ストローク)について理解する。										
第3回	8ビートの習得(1)/8ビートの基本パターンを習得する。										

ベーシックレッスン1 (Dr)

第4回	8ビートの習得(2)/ハイハットオープン、ハイハットクローズ、ライドシンバルの使い分けを習得する。
第5回	ハイハットアクセントの理解(1)/アップダウン奏法を活用し、8分の表拍にアクセントを置いた8ビートパターンを習得する。
第6回	ハイハットアクセントの理解(2)/アップダウン奏法を活用し、8分の裏拍にアクセントを置いた8ビートパターンを習得する。
第7回	シンコペーションの理解(1)/8ビート上でのハイハット、シンバルを用いたシンコペーションアプローチの習得。
第8回	16ビートの習得(1)/片手のみで16分音符のハイハットを刻む16ビートパターンの習得。
第9回	16ビートの習得(2)/8ビートに16分音符のスネアを絡めた16ビートパターンの習得。
第10回	16ビートの習得(3)/8ビートに16分音符のバスドラムを絡めた16ビートパターンの習得(右足のダブルアクション)。
第11回	16ビートの習得(4)/両手で16分音符のハイハットを刻む16ビートパターンの習得。
第12回	16ビートの習得(5)/8ビートに16分音符で連続するスネアでのゴーストノート絡めた16ビートパターンの習得。
第13回	16ビートの習得(6)/4分音符のハイハットにスネアとバスドラムで16分音符を絡めた16ビートパターンの習得。
第14回	16ビートの習得(7)/ハネタリズムの16ビートを習得し、16分ハネについて理解する。
第15回	前期のまとめ。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
ベーシックレッスン1 (key)											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	堀越昭宏			実務 経験	有	職種	ミュージシャン (キーボーディスト/ ピアニスト、アレンジャー、サウン				
授業概要											
様々な演奏の現場に対応するために、ピアノ・キーボードを中心としながら即興的なアンサンブル能力を身につけ、磨いていく。											
到達目標											
それぞれの楽曲の曲想に応じたコード (コンピング、アルペジオ)、リズム・フィール (グルーヴ)、ニュアンス (アクセント)、メロディ/ソロ・ラインを演奏できるようになることを目標とする。観客に届くまでの表現のダイナミクスを獲得することを目指す。											
授業方法											
アコースティック・ピアノ、キーボードを主軸に、曲や履修者によってはボーカルやパーカッションを組み込み、課題曲 (コード譜など) に従ってアンサンブル演奏をしていく。必要な知識 (コード、リズム・パターン、フィル・イン、フレージングなど) はそのつど講師が説明もしくは例示し、演奏に取り込んでいく。											
成績評価方法											
試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
アンサンブル演奏を重視する当授業の性格上、出席率を重視します。更に、4分の3以上出席しない者は試験を受験することができません。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	選択授業オリエンテーション (1) 授業概要説明、課題曲1“TheRose”(1)										
第2回	選択授業オリエンテーション (2) 課題曲1“TheRose”(2)										
第3回	課題曲1“TheRose”(3)										

2020年度 日本工学院八王子専門学校

ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)

ベーシックレッスン1 (key)

第4回	課題曲1“TheRose”(4)
第5回	課題曲2“Lovin’ You”(1)
第6回	課題曲2“Lovin’ You”(2)
第7回	課題曲2“Lovin’ You”(3)
第8回	課題曲2“Lovin’ You”(4)
第9回	課題曲3“StandByMe”(1)
第10回	課題曲3“StandByMe”(2)
第11回	課題曲3“StandByMe”(3)
第12回	課題曲3“StandByMe”(4)、試験曲出題
第13回	試験曲対策 (ヒント提示)
第14回	アンサンブル試験
第15回	前期まとめ (試験演奏の評価、講師による改善意見など)